

A 生活のための日本語プログラム 活動・ユニット案 「校則について知ろう」

1 対象生徒・授業(科目)



対象生徒	年齢 15 歳 学年 高校 1 年生 滞日期間 2 年目 日本語の力：ステップ (3) 母語の力：ステージ (E) (文科省「ことばの力のものさし」)
授業・科目名 (例) (日本語 II)	クラス規模： 小グループ 教科等との関連：キャリア教育 外部支援の有無：なし

2 プログラム概要

プログラム	A 生活のための日本語プログラム
時間	(50) 分 × (3) 回
活動名	校則について知ろう
目指す生徒像	(主に該当するもの) (1) 多様性を強みに、他者と協働して、地域・社会の共生を推進する生徒
目標	(日本語教育・指導が育成を目指す資質・能力の3領域に関し、目標として具体化) (1) 校則で禁止されている物品や行動などの名称や禁止等の表現を理解し、校則の内容を正しく捉えることができる。(知識・技能) (2) 母国・地域での経験も踏まえながら現行の校則について批判的に考え、それを日本語で表現することができる。(思考・判断・表現力) (3) 他者への理解を深め、相互の差異を受容しつつ、集団としての秩序を維持するための校則やルールの役割を考えようとする。(学びに向かう力・人間性)
言語事項 (語彙・表現、文法)	機能 : 「禁止」「許容」「義務」「許可をもとめる」「理由」を表す表現 語彙 ・ 校則に関する語彙：校則、禁止、守る、破る／文化、習慣、宗教、就職、規律 ・ 頭髪・服装に関する語彙：ピアス、カラーコンタクト、化粧／ジャケット、ネクタイ、シャツ、リボン、ベスト、スカート、ズボン、ベルト、靴 ・ 通信機器等に関する語彙：携帯電話、SNS、電源、マナーモード、SNS、写真、動画、アップロード ○通学に関する語彙：通学、自転車、許可ステッカー、鍵、スクールバス、定期券 ○問題行動に関する語彙：いじめ、邪魔、壊す、暴力・暴言、タバコ、お酒、外泊、パチンコ、無免許運転、万引き、薬物 表現： ・ ~てはいけません・~てもいいです・~すると、~ (く/に) になります ・ ~ないでください・~なければなりません／~なくてもいいです ・ なぜ~のでしょうか・なぜなら~からです・~ように／ために ・ もし~たら、~
主な活動	第1時 就職面接の服装と公私の区別について話し合い、服装に関する校則を知る。 第2時 スマホやSNSの使い方について話し合い、校則がある意味を考える。 第3時 問題行動とされるものがなぜ問題なのか話し合い、安全で平和な社会のためのルールの必要性について考える。
活動の工夫	・ 社会・学校のルールを守ることの重要性に気づけるように、就職の面接場面を設定し、生徒から経営者に立場を変えて、服装(制服の着方)に着目させ、プライベートと学校・社会生活を区別して考えさせる。 ・ 学年集会のスライドを活用し、日本語の学習と特別活動の学習とを関連付けて、理解を促す。

	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に校則についての話し合いに参加するように、国による校則の違いについて話し合い、各国・地域や各人による文化や価値観の違いと、その違いから校則が何のためにあるのか考えられるように展開する。 ・校則を意識して行動できるように、話し合いで批判的に考えながら各校則の意義を理解した上で、ワークシートに学んだ表現を使って校則を書き表す活動を行う。
教材・教具	<ul style="list-style-type: none"> ・校則に関するイラストや写真、実物などを用意する。 ・学年集会等使用するスライド（校則の内容の説明）にルビを加えて提示する。 ・話し合ったこと・理解したことを記入できるワークシート（構成はシンプルに、使用を促す表現を記載、何を書けばよいのか視覚的にわかりやすいもの。生徒の理解や日本語の力に応じて利用できるように自由記入欄も設ける。）
評価の方法 (第一時)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の校則に関し、語彙や表現「～てはいけません」「～てもいいです」の意味を知り、理解することができたか。 ・自分の国の学校の校則や所属校の校則の違いを話し合う活動で、校則がある理由を、文化・社会と関連付けて理解し、「～からです」等の表現で自分の考えを表せたか。 ・就職面接場面で、服装の選択について公私の区別に気づき、校則で服装に関する規則があることを理解しようとしたか。
対象・実施条件による調整 のアイデア	<ul style="list-style-type: none"> ・来日直後の生徒が対象の場合は、校則の重要なものに絞り、日本語に関しては、「スマホを使う。だめ!」のように、表現を簡素化して、実施する。 ・母語や英語等共通言語がある場合は言語グループを作り、その言語で話したり翻訳アプリを使ったりして、活発に話し合いが進むこと、考えを深められることを優先する。クラス全体での共有では、話し合った内容を日本語で表現できるよう、教師が適宜言い換えるなどしてサポートする。 ・日本語の力が高く、日本語での話し合い活動に慣れている生徒集団の場合は、グループごとに異なるテーマの校則を取り上げて検討した後に、クラス全体で紹介し合うという活動とすることも可能である。 ・価値観や文化的背景等の違いで校則に納得できない生徒がいる場合、校則の意味や理由を、生徒指導担当の先生に聞きに行くという活動に繋げてよい。 ・日本語の授業数やカリキュラム全体の構成から、この内容に3時間を当てることができない場合、第1時のみの実施とし、他の校則を母語訳等で確認するよう促す。

3 活動展開(第1時のみ。第2・3時は、活動展開2以降を参考に実施)

事前の準備：生徒の出身国/地域の学校の規則等を調べる等して、一定の理解を持っておく。	
活動展開 ○教材・教具	活動参加のための言語運用例（目標の語彙・表現等）
<p>1 テーマについて知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職の面接場面で、制服の着方から、社会で「ルール」を守ることを意識する。 ・校則の必要性を考える  	<p>T: (イラストを示して) あなたは会社の社長です。就職の面接をします。どの人がいいですか？ どうしてですか。</p> <p>S1: 上の右の人。制服をちゃんと着ていて、仕事もできると思うからです。</p> <p>S2: わたしは、下の真ん中の人もいいと思います。かわいくて、元気な感じだからです。</p> <p>S3: 下の左の人がいいです。ルールを守る人がいいからです。</p> <p>T: プライベートは好きな服がいいですね。でも、会社も学校も、ルールがありますね。高校のルールを「校則」と言います。〇〇高校の校則を守りましょう。</p>

<p>2 服装に関する校則について知る</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的な校則のスライドを見ながら、次の表現を理解し、校則の内容を確認する。 「ピアスをつけます。ダメです」 →「～てはいけません」 「普通のコンタクトをいれます。いいです」→「～をいれてもいいです」 学んだ表現を使って、校則についてやりとりする。 	<p>T: ピアスをつけます。ダメです。ピアスをつけてはいけません。 S: ピアスをつけてはいけません。</p> <p>T: ふつうのコンタクトをいれてもいいです。色のないリップをぬってもいいです。 S: ヒジヤブをつけてもいいですか。 T: はい、つけてもいいです。</p>
<p>3 出身国の学校の校則との違いについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 出身国との違いについて、ペアまたはグループで話し合って考えを深める (母語OK) <p>・話し合ったことを日本語で紹介し合う。</p>	<p>T: Sさんの国の学校では、ピアスをつけてもいいですか。 S: はい、私の国ではピアスをつけてもいいです。/いいえ、私の国ではピアスをつけてはいけません。 T: なぜ日本の学校ではいけないのでしょうか。 S1: なぜなら、文化が違うからです。 S2: 習慣も関係があるかもしれません。 S3: おしゃればかりすると、勉強の時間がなくなるからです。 S4: お金が必要になって、あぶないアルバイトをしないように。</p> <p>T: 自分の国の校則を紹介してください。 S: (国) では、ピアスをつけてもいいです。赤ちゃんからつけます。家族のピアスです。</p>
<p>4 学んだことをまとめる。 (ワークシート記入)</p>	<p>S: (ワークシートに記入)</p> <ul style="list-style-type: none"> ピアスをつけてはいけません。 カラーコンタクトをいれてはいけません。

4 教材・教具の例

ワークシート例

〇〇高等学校 ^{こうぞくし}校則を知ろう

年 組 名前()

NO「～てはいけません」 OK「～てもいいです」

ピアス	ピアスをつけてはいけません
普通のコンタクト	
カラーコンタクト	
色のないリップクリーム	

あなたの^{くに}国の^{がっこう}学校では？(何語でもOK)

ピアスを^は着ける コンタクトを^い入れる リップを^ぬる